

ダイレクトメール

作 糸 会 う え の



福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館

冬のおとなミュージアム
「コレクション×コラボレーション」

1月10日(水)～4月17日(火)

3館による共同企画として、休館中の当館コレクションが、福岡市博物館で開催される「市美×市博 黒田資料名品展Ⅵ 黒田資料にみる幕末維新」展と福岡アジア美術館で開催される「異境にてー日本作家の見たアジア」展で各館のコレクションと共に展示されます。当館が休館中だからこそ実現したこの企画、美術と歴史、日本とアジアが織りなす絶妙なコラボレーションを会場でぜひお楽しみください。

関連イベント

コラボ・トーク

市美×市博、市美×アジア美術の学芸員によるギャラリートーク・セッションを行います。いずれも参加無料ですが、各館常設展観覧料が必要です。

日時:1月14日(日) 13:30～14:30
場所:福岡アジア美術館 アジアギャラリー
越純恵(福岡アジア美術館学芸員)×正路佐知子(当館学芸員)

日時:2月12日(月・振休) 13:30～14:30
場所:福岡市博物館 企画展示室2
高山英朗(福岡市博物館学芸員)×宮田太樹(当館学芸員)

作品はどこへ？

福岡市美術館の所蔵品が展覧会、美術館・博物館でご覧になれます。

「モダンアート再訪 ーダリ、ウォーホルから草間彌生までー
福岡市美術館コレクション展」

21世紀に入って間もなく20年。私たちは20世紀の美術を再考すべき時機を迎えています。本展は、福岡市美術館のコレクションの中から選りすぐりの作品76点で構成。モダンアートの歴史を再確認し、その成果を検証する格好の機会となるでしょう。

◎2月3日(土)～3月18日(日) 鳥取県立博物館
◎4月7日(土)～5月20日(日) 埼玉県立近代美術館
◎6月2日(土)～8月26日(日) 広島市現代美術館
◎9月15日(土)～11月4日(日) 横須賀美術館

所蔵品紹介

せい じ しん てい こ

青磁神亭壺

中国・3世紀 | 高さ47.5cm | 森田コレクション(作品番号20-Ha-69)



壺の中に何が入っているかを想像することは、人の心を読む行為に似ています。壺の中をのぞき込む時のソゾク感、人の本音や本心を知ってしまう瞬間の言い知れぬ恐怖に似ています。壺中の天地」という言葉の語源となった中国の昔話は、ある男が仙人に導かれて壺の中に入ると、そこには馳走や美酒に満ちた御殿があった云々(『後漢書』方術伝)の物語。その壺中に存在する秘密のユートピアも、人間の見えざる心の世界を寓喩しているようでもあります。とかく壺というものは何かと奥が深い。壺が鑑賞用の置物と化しつつある現代でも、人は壺に何らか神秘的なものを感じているはず。

そこで今回、とりわけ神秘的な壺を紹介しましょう。上部に五層の楼閣がそびえ、その周囲に胡人(西方の人物のこと。尖った帽子を着けている)、騎馬人物、鳥、熊、犬、羊などがひしめいています。すべて一体として固着されていて、もはや壺本来

の貯蔵機能はありません。この種の壺は、墓中から出土することから副葬品と分かれ、楼閣部分が神仙世界を表わしたと考えられることから「神亭壺」と呼ばれています。被葬者の魂を宿す器として副葬されたという説もあります。さて神亭壺の遺例の中には、仏像(仏陀の姿)が表わされたものがあります。それは中国における仏像の初期的な造形例として重視されているのです。実は、この作品にも、あります。じゃあ、どこに?それを見つけるのが難しい。楼閣部分にひしめく人物・動物たちに隠れるように、その奥、楼閣初層の壁面に、型押しで作って貼り付けた小さな仏坐像が、確かに鎮座しておられます。

この作品は現在、九州国立博物館・文化交流展示室内に出品中(3/25まで)。是非ご自身の目で仏像探しにトライしていただき(見つかる保証は出来ません)、摩訶不思議な壺の世界に引きずり込まれて下さい。(後藤恒)



【つきなみ講座】

休館中もつきなみ講座は開催中!ただし、会場は福岡市美術館ではありませんのでご注意ください。事前申込不要、一部を除き参加無料です。受付は開始時刻の30分前からです。

1月20日(土) 15:00～16:30

描かれた「自然」

ー聖地・名勝、そして風景ー

福岡アジア美術館で1/11～4/17に開催される「異境にてー日本作家の見たアジア」展にあわせて、日本で描き継がれてきた「自然」をモチーフとした作品の歴史をたどります。講座終了後は、「異境にて」展の担当学芸員と一緒にスペシャルギャラリートークも実施いたします。

宮田太樹(当館学芸員)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール
定員:50名 ※スペシャルギャラリートークには常設展観覧料が必要。

2月17日(土) 15:00～16:00

展覧会は終わらない

ー現代アートの展覧会をつくる

美術館はどういう場所になれるのか。そんなことを考えて2014年に「想像しなおいし」展、2016年に「歴史する!」展を企画、実施しました。2つの展覧会を例に、福岡で現代美術展を行うこと、企画意図、出品作家、作品、終了後の展開について話します。正路佐知子(当館学芸員)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール

定員:50名

3月17日(土) 15:00～16:00

福岡市美術館の仏教美術③

仏教彫刻 ー種類と姿ー

無数に近い仏教尊像を如来・菩薩・明王・天の4部に分類し、その教理上の性格と姿の特徴についてながめます。併せて造像技法についても述べます。

錦織亮介(当館館長)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール

定員:50名

市美×市博

黒田資料名品展関連講座

「ここまでわかった!

塩竈・松島図屏風の謎」

終了レポート

日本三景としても有名な松島(宮城県)の雄大な景色を描いた「塩竈・松島図屏風」。この屏風は黒田家伝来品として美術館に収蔵されていますが「どうして黒田家に宮城の景色を描いた屏風があるのか?」という問いに答えることができていませんでした。そんな課題に挑んだのがこの講座。「持ち主は誰だったのか?」「いつ頃描かれたのか?」という謎をめぐって、歴史と美術、それぞれの立場から説を提示しました。どうやら、黒田家に嫁いだ女性の中に仙台藩・伊達家に縁深い人物がいたらしい、ということまではわかりましたが、全容解明まではまだまだ道半ば。さらなる研究の進展にご期待ください!

日時:2017年10月15日(日) 14:00～15:30

会場:福岡市博物館1階 講座室1

講師:宮田太樹(当館学芸員)

宮野弘樹(福岡市博物館学芸員) (宮田太樹)

〈ふくおか応援寄付〉

福岡市へのふるさと納税(ふくおか応援寄付)は、福岡市美術館コレクションの充実に役立てられています。平成29年度は当館に5,000円以上ご寄付いただいた方に、記録集「福岡市美術館 クローージング/リニューアルプロジェクト2016」について語る。を贈呈いたします。みなさまからの応援をお待ちしています!

問合せ:リニューアル事業課 Tel 092-714-6051

ふくおか応援寄付 **検索**

ESPLANADE 190

福岡市美術館 季刊誌

エスプラナード

190号

January, 2018



1979年、開館前とされる福岡市美術館の様子。真新しい建物の周りは、まだまだ整備途中のよう。ヤフオクドームも福岡タワーも、もちろんスターバックスコーヒーの姿もない。 提供:西日本新聞社

美術館のぐるりを、知る、歩く。

福岡市美術館がある、

大濠公園と隣の舞鶴公園。

ふだんから利用している人も、

案外どんな歴史を持つ公園なのか

知らないかもしれません。

ここでは公園の歴史をひもときます。

福岡市美術館
中山喜一朗副館長に聞く

大濠公園と舞鶴公園の、これまで

実は古代、大濠公園があるあたりは海でした。「草香江」という地名は博多湾の入江だったことを表していて、万葉集の同伴旅人が詠んだと言われる歌に出ています。当時は鴻臚館の閑近まで海が迫っていたそうで、ここでは外交使節をもてなし、遣唐使らの送迎が行われていました。まさに国交の要の場所だったわけですね。時代は下って関ヶ原の戦い後、あたり一帯は黒田家の初代藩主長政によって、7年がかりで福岡城が築かれました。その姿を模して「舞鶴城」と呼ばれていたようで、それが舞鶴公園の名前の由来となっています。また現在の大濠公園のあたりは、「大堀」という名前前で、外堀として利用されていました。このお堀、なんと天神を突っ切って中洲まで続いていた。現在の姿から想像するより、ずっと大きな規模の城だったのですね。この頃持主たちは、船を浮かべて月見をしていたそうです。明治時代に入ると、お堀の使い道が検討されるこ

とに。この時、九州電力を作った実業家で、茶人としても知られ、福岡市美術館にもコレクションが寄贈されている松永安左衛門氏によって遊園地案が提案されましたが、反対されたというエピソードも残されています。大濠公園が今の形になるきっかけは、「日本公園の父」と呼ばれ、日比谷公園の設計者としても知られる林学博士の本多静六氏がこの地に目を留めたことでした。本多博士はお堀の水を活かし、当時珍しかった水景公園を、愛弟子の永見健一氏にデザインさせました。1926(大正15)年に着工。1927(昭和2)年には「東亜勸業博覧会」の会場として使われました。1929(昭和4)年に、ほぼ今の姿が完成したことが分かっています。

公園と美術館の、これから

福岡市美術館は、1979(昭和54)年、大濠公園の一面に開館しました。収蔵作品や建築そのものはもちろん、環境もまた美術館の大きな財産。来館

者から「本当に素晴らしいロケーションですね」との言葉をいただくこともしばしばです。今回のリニューアルもまた、大濠公園との一体感をより増す方向に進めています。新しい美術館は、これまでお話ししてきたような、万葉の時代からの歴史が積み重なる一番上に、新しい層を加えることになります。100年200年経って振り返った時に、価値のある一時代であらねばと気持ちがいきまします。また美術館は、美術を展示する場であると同時に、文化を時間の淘汰から保存すること、大切な役割です。大きな歴史に浸食されてしまいがちなアートの岩であたりだすね。現在、福岡県と市が一体となって、大濠公園と舞鶴公園を活用する「セントラルパーク構想」が計画されています。歴史にリスペクトを払いながら、公園全体が広大なミュージアム空間となることを目指しています。その一翼を担う立場として、どんどん増えている外国人観光客はもちろん、市民のみなさんにとって、親しみやすく魅力のある美術館をつくっていくつもりです。

①

ただいま「仮囲い」がアートに変身中

福岡市美術館

ただいま2019年3月のオープンに向けて、仮囲いを立てて工事中的福岡市美術館。この仮囲いに、去る11月3日に子どもたちと絵本作家・荒井良二さんによって描かれた絵が飾られています。数々の絵本を手がける荒井さんは、2005年には子どもの絵本の国際的な賞である「アストリッド・リンダグレン記念文学賞」を受賞。カラフルな色で描き出されるファンタジックな世界に、多くのファンが魅せられています。この日も、荒井さんと一緒に絵を描きたいという小学3年生から中学生まで30人が集まりました。テーマは「未来の美術館」。

大きな画面に大胆に絵の具を落とし、手を使って描く荒井さんの姿に、子どもたちはビックリ。自由に描く、自分で考えるということを体感しながら、共同で絵を完成させるということの楽しさと大変さを感じた一日でした。「形のない美術館」「移動できる美術館」「海の中の美術館」「電球」「春夏秋冬」というテーマで描かれた5つの作品。工事期間中だけ見られる絵なので、ぜひ今のうちに足を運んでください。



②

天然酵母パンのサンドイッチで
大濠公園ピクニック

Son Of a Sandwich 六本松本店

再開発で賑わう六本松駅から美術館に向かう通りには、最近気になる個人商店がいくつも並んでいます。こちらもそのひとつ。北海道産強力粉を使ったパンと、全粒粉を使った黒いパンは、小麦本来のおいしさ。健康志向が高い人に人気です。旬の野菜やアボカド、キノコのオムレツなどディニングも充実。

☎092-732-6664



④

福岡で最先端テクノロジーとクリエイティビティに触れる

福岡市科学館

2017年10月のオープン以来、多くの人が訪れている「福岡市科学館」。「サイエンス&クリエイティブFUKUOKA」をコンセプトに、身体を通して科学を感じることが出来るインタラクティブな展示が大きな特徴です。なかでもプラネタリウムには特にこだわっていて、プログラムも豊富で、幅広い人達が楽しんでいます。

大きな特徴のひとつ、福岡の企業と研究者と一緒に作った「クリエイティブスペース」では、最先端のテクノロジーを使った作品を展示。五感を使って遊んでいるうちに、知らず知らず科学と触れることができます。また、工作室が常設されていて、発想力と想像力を育てる取組みが期待されています。

事務局次長の加藤孝信さんは科学館と美術館と一緒にやれることは多いと話します。「科学にとっても、芸術にとっても、観察する力」は重要なもの。例えば動物を観察して描くというワークショップを、科学館と美術館両方の視点で取組むなど、科学とアートが連携してできることがたくさんありそう楽しみです」と期待を寄せています。

☎092-731-2525



現在、リニューアルのための工事が行われている福岡市美術館。作品は見られませんが、美術館のまわりはアートイベント、好奇心を刺激する店、おいしいものいろいろあります。新しくなった六本松駅周辺へけやき通り～大濠公園を街歩きしてみませんか？

福岡市美術館の思い出や、これから期待することなども聞いてみました。

Illustration: Yuko Sakata



⑩

充実した人生を送るヒントと出会える本屋

ブックスキューブリック けやき通り店

思いがけない本との出会いの場を提供し続ける「ブックスキューブリック」。選書の方針は、「充実した人生を送るための本」で、思想や文学はもちろん、食べ物やインテリアなど生活のすべてに及びます。「体験したものは記憶に残る」という考えのもと、トークショーや地元活性化のためのイベントも積極的に開催しています。「本は文化の入り口です。新しくなる福岡市美術館とは、一緒に取組めることも多いと思います」と代表の大井実さん。

☎092-711-1180



⑨

ワイングラス片手にアートを堪能
けやき通りのギャラリーを巡る

ギャラリー梯子酒

「ワイン片手に、アートをつまみに、ギャラリーをはしごする」、こんなステキな催しがけやき通りで行われています。様々な作品を鑑賞しながら会話が弾むひと時に魅了され、毎回200人もの参加者が集います。参加費は3杯分のドリンクチケット付きで1,500円。参加店や次の開催はフェイスブックをチェック。
facebook.com/GalleryHopping



⑧

暮らしに小さな波紋が
生まれるようなものと出会う

工藝風向

「使う人が入り込む余白が感じられるものが好きですね」とスタッフの高木しらべさんが話す通り、ここで出合うものは、誠実でいてどこかなくのびのびした空気。取材日はおらかなやちむん(沖縄の方言で焼物の意味)が並んでいました。「美術館帰りに、隣の珈琲美美と一緒に寄ってくださる方が多いです」とのこと。かつて「勝手に連動企画」と称して、美術館の展示と合わせてオリエントの古いものを扱う企画をやったことも。1月10～21日は、H.P.E.谷由起子さんとラオスのレンテン族による「豆紋」が1060枚並ぶ予定です。

☎092-716-5173



⑦

すっかりまちの風物詩に
福岡のライフスタイルマーケット

護国神社 蚤の市

次回で30回を迎える「護国神社 蚤の市」。いわゆる骨董市ではなく、アンティークや雑貨、クラフトや植物など、暮らしにまつわる様々なものが手に入るとあって、広く人気を博しています。また福岡市内の人気カフェやレストランが店出し、おいしいものが食べられることも知られています。今回の開催は、2月3・4日(9～16時、雨天決行)。主宰の徳永尚志さんは小さい頃から美術館に通っていたそうで、特に草間彌生の作品がお気に入り。
http://g-nominoichi.petit.cc



⑤

福岡市美術館、收藏作家の本も
充実したアートコーナーがある本屋

六本松 蔦屋書店

「旅」や「音楽」などとともに、「アート」を大きなテーマのひとつに据えている「六本松 蔦屋書店」。店内には展示スペースがあり、気軽にアートを楽しむことができます。芸術書は、西洋美術・日本美術・写真各30人、漫画・建築・デザイン各10人の計120人のアーティストをフィーチャー。サルバドール・ダリ、アンディ・ウォーホル、ジャン＝ミシェル・バスキア、草間彌生など福岡市美術館の収蔵作家の本もたくさん！ イベントも多く行われていて、まさに「体感する本屋」です。

☎092-731-7760

⑥

アートな空間で、おいしいカレーに舌鼓

アトリエでらた

当館にも作品が収蔵されている九州派の一人・故寺田健一郎さんのアトリエを改装したカフェ。一歩足を踏み入ると、インパクトのある内装に、使い込まれたイーゼルなどがいまもそのまま残され、不思議な居心地のよさ。音楽活動を行う次男夫婦の手で営まれていて、アート好き、音楽好き、幅広い世代の人たちが立ち寄る場所になっています。人気メニューは「ヤッホーカレー(800円)」。本格的なスパイシーカレーに、思わずやみつきになる人も。

☎092-771-4445



美術館のぐるりを、知る、歩く。

美術館のぐるりを、知る、歩く。